

「甲斐の先進性」

山梨県観光文化埋蔵文化財センター
小林健二

はじめに

古墳時代前期の甲斐は、これまでの調査研究成果から甲斐天神山古墳（132m）－大丸山古墳（120m）－甲斐銚子塚古墳（169m）と、大型前方後円墳が 3 代にわたり築造されていることが確実となり（図 1）、東日本の中でも卓越した地域であることが明らかになっている。筆者はこれまで、その歴史的背景や意義について考え（小林 2019）、さらに倭王権との強力な関係を背景にした甲斐の「先進性」、「独自性」についても、既に取り上げたところである（小林 2022）。ここでは、改めてその動向を振り返っておきたい。

1. 甲斐銚子塚古墳出土の車輪石

まず、甲斐銚子塚古墳出土の腕輪形石製品のうち、車輪石について見てみると（図 3）、出土した 6 点の平面形態はいずれも正円形であるが、斜面の 3 条に沈線をもつ幅広の凸帯や外端部側面の沈線（凹線）、断面形など、先学の型式分類に比定できない特徴的なものがあり（図 3-5）、以前から注目されていた（川西 2004）。

円形車輪石の祖型や型式変化についてはここでは触れないが、この車輪石については、もはや貝製腕輪を模したとはいえないものであり、筆者がかつて検討したように（小林 2007）、やはり独自のデザインで製作されたことが考えられる。

甲斐銚子塚古墳の副葬品には腕輪形石製品のほか、鏡 5 面（内行花文鏡、三角縁神獣車馬鏡、三角縁三神三獣鏡、鼉龍鏡、環状乳神獣鏡や鉄製武器（鉄剣、鉄刀）・農工具類（鉄斧、鉈）、石製玉類など、古くから知られた資料が豊富にある。鏡は東国の前期古墳の中でも出土量が多く、倭王権との関係を示す重要な資料である一方、最近では水晶製勾玉 5 点の副葬に象徴されるように、甲斐産の水晶が古墳時代前期に東日本各地へ供給され、玉類が製作されていることが確認されており（一之瀬・金井 2021）、倭王権からの配布や下賜ではないことがここでも注目される。

2. 大丸山古墳出土の手斧・短甲

甲斐銚子塚古墳に先行して築造された大丸山古墳は、「二重構造の特異な埋葬施設」を持ち、甲斐銚子塚古墳とともに古くから学界で知られている前方後円墳である。果たして「二重構造」かどうかは、今後の発掘調査に委ねられているが、副葬品は鏡 3 面をはじめ武器・武具・鉄製農工具が豊富で、甲斐銚子塚古墳とは異なった埋葬内容であり、これらについても石枕とセットになった花崗岩製の組合式石棺や鉄製柄付手斧（図 4-7）は、渡来系の工人によってもたらされた技術や製品であることが指摘されていた（川西 2004）。

河野正訓氏は鉄製柄付手斧（鉄柄斧）の型式学的検討を行い、先行研究（宮澤 1989）などを踏まえた上で、相次いで築造された大型前方後円墳や塩部遺跡での馬の存在など（村石 1996）、甲斐の古墳時代前期の先進的な動向からも大丸山古墳の手斧は加耶との交流を背景に、甲府盆地で生産された可能性があるとする研究成果を発表している（河野 2021）。堅矧板皮綴短甲（図 4-8）についても同様の生産体制を想定しており、これは甲斐銚子塚古墳出土の車輪石の動向ともオーバーラップするものである。

3. 甲斐の先進性

甲斐銚子塚古墳の発掘調査では、筆者が「甲斐銚子塚型祭祀具」と呼ぶ円板形木製品（図2）と幡状木製品（図3）など、多くの木製品が出土している（小林 2018）。これらは甲斐銚子塚古墳以外に出土例はなく、畿内の古墳出土品とは型的にも繋がらず、系譜関係が説明できないものであり、この古墳の被葬者が独自に創案したものと評価されている（坂 200・2007、鈴木 2011）。言い換えれば、これらは東国の前期古墳における先進的な祭祀具であり、被葬者の威儀が強く反映されたものである。

繰り返しになるが、古墳時代前期の甲斐に大型前方後円墳が相次いで営まれたのは、甲府盆地が原東海道と原東山道をつなぐ交通の要衝であり、倭王権が東海地方、中部山岳地帯、さらに関東を結ぶ物流の拠点として機能していた甲斐の役割を重視し、当該地域との関係を強化したことにはほかならない。

このような背景の下で3代の王は、石製品や鉄製品、馬など様々な先進的な文物を入手する一方、独自の製作を行い、水晶などの東日本各地への供給を掌握していたことが考えられる。

おわりに

これらの研究成果は、従来の定説的な見解に再考を促すものであるが、古墳時代前期の甲斐では、「物流の王」たちが倭王権との強固な関係を背景に、「先進性」、「独自性」を推し進めていったことが考えられる。そして、交通路を介した甲斐の地域社会は中期以降、多様に変化していく。

参考文献

- 一之瀬敬一・金井拓人 2021「古墳時代前期における山梨県産水晶の利用」『研究紀要』37 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
- 川西宏幸 2004「記念講演 長柄・桜山の時代」『シンポジウム 前期古墳を考える～長柄・桜山の地から～/国史跡指定記念講演会 未来に活かす史跡整備を考える 記録集』逗子市教育委員会・葉山町教育委員会
- 河野正訓 2021「日本列島における古墳時代の鉄柄斧」『考古学雑誌』第103巻第2号 日本考古学会
- 小林健二 2007「甲府盆地から見たヤマト（1）－甲斐銚子塚古墳出土の木製品－」『研究紀要』23 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
- 小林健二 2018「甲府盆地から見たヤマト（4）－甲斐銚子塚古墳出土の木製品－」『研究紀要』34 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
- 小林健二 2019「甲府盆地から見たヤマト（5）－中道古墳群の歴史的意義－」『研究紀要』35 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
- 小林健二 2022「古墳時代前期における甲斐の先進性」『人・墓・社会－日本考古学から東アジア考古学へ－』土生田純之先生退職記念事業会編 雄山閣
- 鈴木裕明 2011「1 墳丘と外表施設の諸相⑧ 埴輪樹立と木製樹物」『古墳時代の考古学3 墳墓構造と葬送祭祀』同成社
- 坂靖 2006「2 木製立物の性格」『八条遺跡』奈良県立橿原考古学研究所報告第94冊（のち2009『古墳時代の遺跡学－ヤマト王権の支配構造と埴輪文化－』雄山閣に所収）
- 坂靖 2007「古墳と木製立物」『月刊考古学ジャーナル』No.565 ニューサイエンス社
- 宮澤公雄 1989「鉄製柄付手斧について」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第1集 帝京大学山梨文化財研究所
- 村石眞澄 1996『塩部遺跡』山梨県教育委員会
- 山梨県 1999『山梨県史』資料編2 原始・古代2

土器編年	須恵器	墳墓									
		長坂・明野 須玉・韮崎	白根・若草 楡形・甲西	豊富・三珠	中道	境川	八代	一宮・御坂	双葉・竜王 敷島・甲府	石和 春日居	山梨・塩山
250	古墳Ⅰ期				上の平1号墓 (30m) 上の平116号墓 (18m)				松ノ尾6号墓 (規模不明) 塩部C地区1号墓 (19m)		
	古墳Ⅱ期	坂井南6次1号墓 (12m) 坂井南4次4号墓 (18m)		上野1号墓 (24m)	上の平37号墓 (10m) 宮の上9号墓 (9m)			榎田2号墓 (11m) ヂクヤ (11m)			
	古段階	北村1号墓 (17m) 北村2号墓 (14m)			小平沢 (45m) 米倉山B1号墓 (19m)		亀甲塚 (25m) (規模不明)	榎田1号墓 (16m) 榎田4号墓 (13m)			
	古墳Ⅲ期 新段階	大日川原11号墓 (14m) 大日川原4号墓 (12m)			甲斐天神山 (132m) 大丸山 (120m) 甲斐銚子塚 (169m) 東山北2号墓 (36m)	西原SH10 (15m)		桜井畑1号墓 (18m) 塩部SY03 (20m) 桜井畑2号墓 (28m)		下西畑1号墓 (14m) 武家1号墓 (10m) 下西畑4号墓 (13m) ケカチSZ1 (13m) 西田1号墓 (12m)	
350	古段階				丸山塚 (72m)				桜井畑3号墓 (33m)		
	古墳Ⅳ期		物見塚 (48m) 大師東丹保 (36m)								
	古墳Ⅴ期 新段階	TG232 TG231 ON231		鳥居原狐塚 (25m)	(米倉山B10号土坑)		諏訪尻1号墳 (30m)				
	古墳Ⅵ期	TK73 TK216					竜塚 (55m)			大蔵経寺前1号墳 (16m)	
450	古墳Ⅶ期	ON46 TK208		上野 (20m)	東山南(B)2号墓 (26m) 東山南(B)1号墓 (22m) かんかん塚 (茶塚) (25m) 東山南(A)K4号墓 (9m)		盃塚 (25m)			大蔵経寺前3号墳 (26m)	
	古墳Ⅷ期	TK23 TK47	寺部村附第61号墓 (19m) 六科塚 (28m)	高部宇山平 (12m) 王塚 (61m) 大塚 (50m)	岩清水1号墓 (24m) 朝日無名墳 (20m)	馬乗山1号墳 (13m) 馬乗山2号墳 (60m)	狐塚 (26m) 団栗塚 (30m)	姥塚2号墓 (12m) 姥塚4号墳 (28m) 姥塚4号墓 (9m)			
	古墳Ⅷ期										
	古墳Ⅷ期										
500	古墳Ⅸ期	MT15 TK10		三星院1号 (45m)	表門神社 (62m) 米倉山無名墳 (20m) 考古博物館構内 (15m)		荘塚 (28m) (墳形不明)		横根・桜井39号墳 (11m) 万寿森 (38m)	大蔵経寺山15号墳 (12m) 御室山 (規模不明) 天神塚 (35m)	
	古墳Ⅹ期	MT85 TK43	おつき穴 (規模不明)	伊勢塚 (36m)	福荷塚 (28m)		地蔵塚 (35m)	弾誓窟 (16m) 長田1号墳 (26m) 姥塚 (40m) 四ツ塚5号墳 (18m) 井之上 (規模不明)	加牟那塚 (45m) 大塚 (16m) 大庭無名墳 (17m)	平林2号墳 (15m)	
	古墳Ⅹ期										
	古墳Ⅹ期										
600	古墳Ⅺ期	TK209 TK217	天王塚 (17m) 穴塚 (10m) 湯沢2号墳 (10m)	鑄物師屋 (18m) 上村 (10m)	一条氏館跡1号墳 (規模不明)		古柳塚 (20m) 口開塚 (規模不明) 竹居1号墳 (16m)	国分築地1号墳 (12m) 福荷塚 (20m) 四ツ塚26号墳 (18m) 千米寺大塚 (17m) 長田20号墳 (25m) 経塚 (12m)	ニツ塚1号墳 (22m) 往生塚 (15m) 双葉2号墳 (15m) お舟石 (18m) 中稜塚 (28m) 竜王3号墳 (28m) 竜王2号墳 (14m) 狐塚1号墳 (24m)	狐塚 (20m) 笹原塚3号墳 (6m) 寺の前 (20m) 大蔵経寺前5号墳 (24m)	牧洞寺 (16m) 天神塚 (20m) 福荷塚 (17m)
	古墳Ⅺ期										
	古墳Ⅺ期	TK46									
	古墳Ⅺ期	TK48				くちやあ塚 (10m)		御崎 (28m)			

図1 甲斐地域における墳墓の変遷

(小林 2021 「甲斐の終末期古墳— 律令社会への展望—」 『山梨県考古学協会誌』 第27号に加筆・修正)

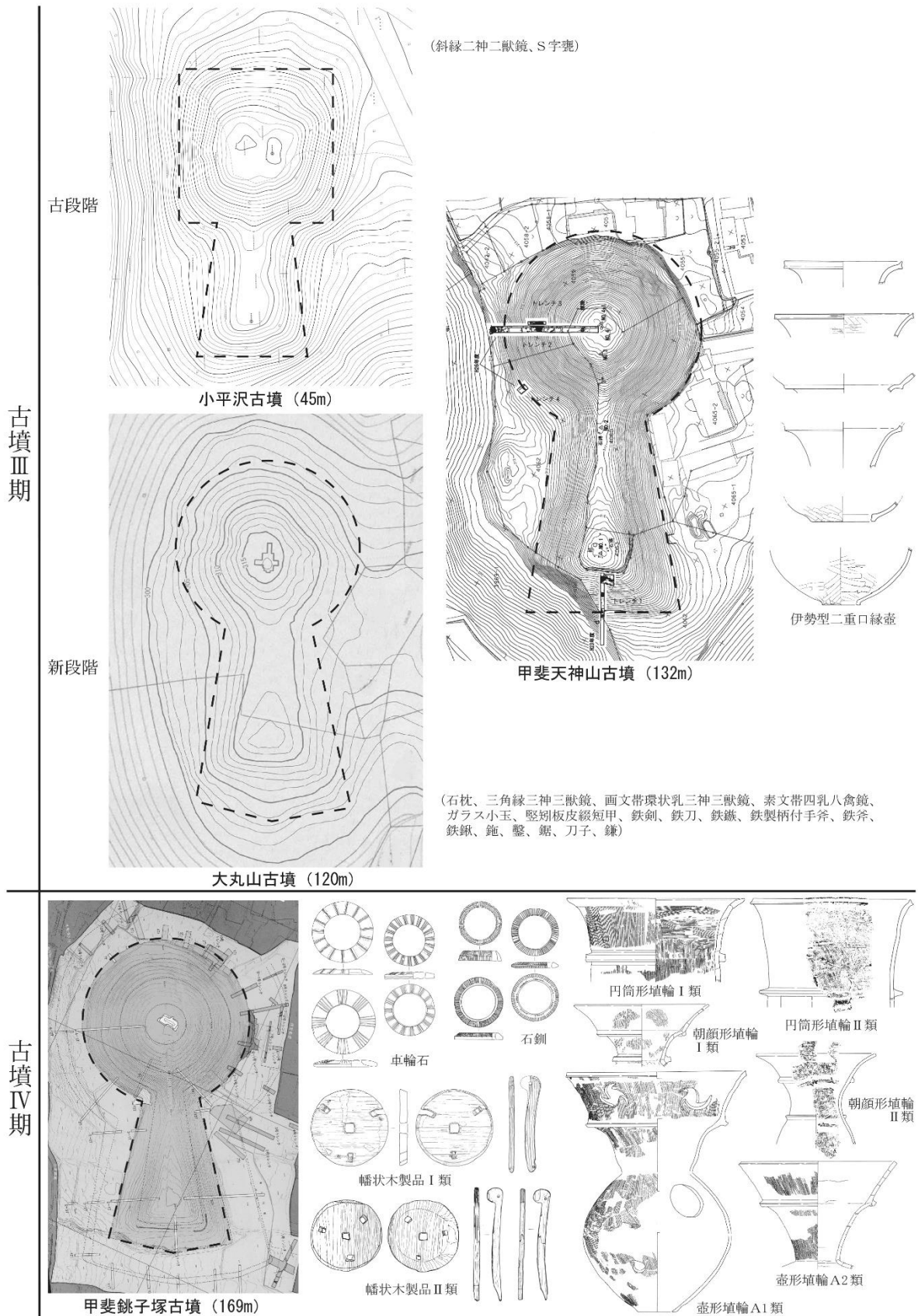


図2 中道古墳群の前期古墳

(小林 2019 「甲府盆地から見たヤマト(5)－中道古墳群の歴史的意義－」『研究紀要』35 より)

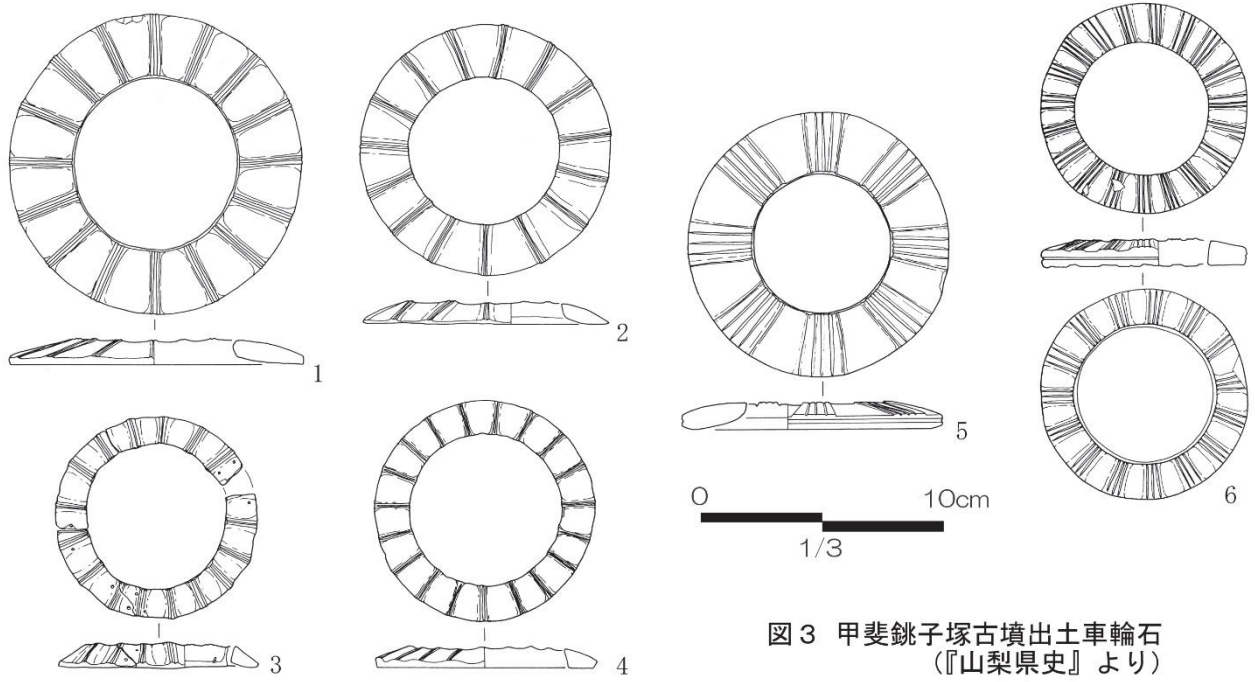


図3 甲斐銚子塚古墳出土車輪石
 (『山梨県史』より)

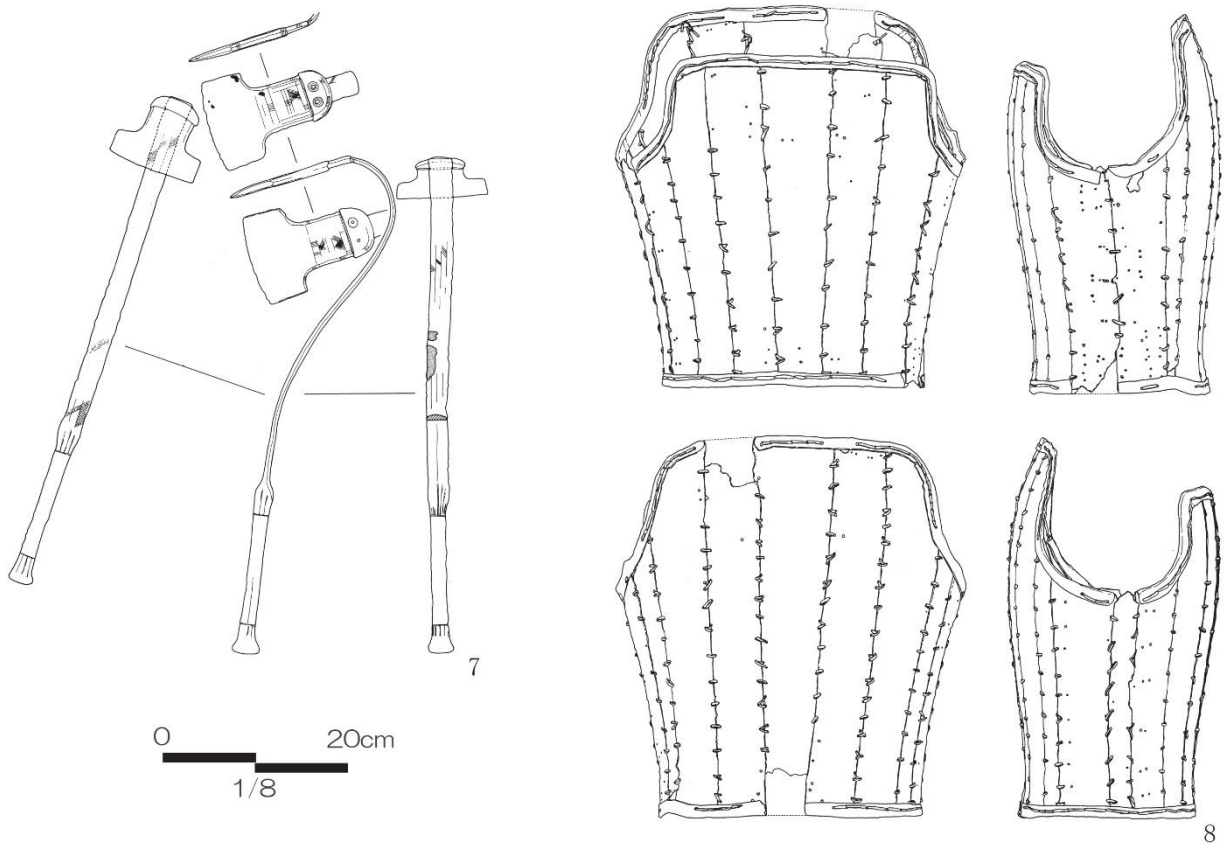


図4 大丸山古墳出土手斧・短甲 (7: 宮澤 1989、8: 『山梨県史』より)



図5 幡状木製品の復元イメージ
 (左：山梨県埋蔵文化財センターのイベント「古墳でマツリ」より、右：山梨県立考古博物館ガイドアプリ「AR古代望見ーよみがえれ！甲斐風土記の丘ー」より)

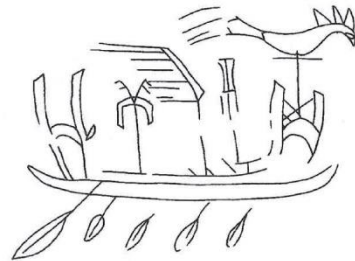
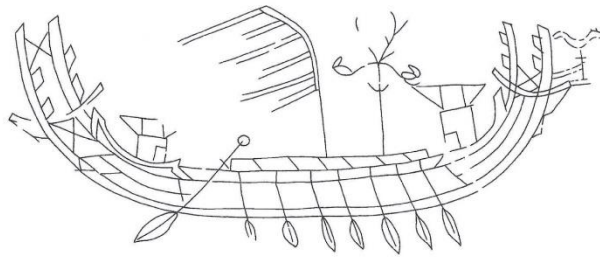


図6 東殿塚古墳出土緒付き楢円筒埴輪の線刻絵画（縮尺不同）
 (天理市教育委員会 2000『西殿塚古墳・東殿塚古墳』天理市埋蔵文化財調査報告第7集 より)